

## Domaine Michel Gros ドメーヌ・ミシェル・グロ



1830年、グロ家はヴォーヌ・ロマネ村で開業する。

今日では、6代目のミシェル・グロが、先祖たちの仕事を受け継いで発展させている。

また、妹は Domaine AF Gros、弟は Domaine Gros Frère et Soeur、従妹は Domaine Anne Gros を経営し、彼らも同様、グロ家の家業を続けている。

情熱家であり、同時に厳しさをも持ち合わせるミシェル・グロは、ワイン造りに不断の手間をかける。畑仕事から瓶詰めに至るまで、各段階の技術を修得している。慎ましい性格の彼は、ワインを通じて自分を表現する。

寛大で、繊細でエレガントなワイン。その品質は常に一定している。

ミシェル・グロと彼を支える従業員たちは、ワイン造りにおける情熱と要求の高さを、皆様にご紹介します。

### Michel Gros ミシェル・グロ (1956年生まれ)

1975年、ミシェル・グロはボーヌ市のぶどう栽培醸造学校を卒業し、父ジャンと共に家業のドメーヌで働き始めました。

そして1978年には、それまで通り父ジャンの片腕となって働きながら、一方で自分自身のドメーヌ(ドメーヌ・ミシェル・グロ)を設立しました。父方の2ヘクタールのブルゴーニュ・オート・コート・ド・ニュイからワインを醸造し、彼自身の名義でワインを販売し始めたのです。つまり1979年がミシェルにとっての最初のヴィンテージになります。

年月とともにミシェルは自分のドメーヌを拡大していきました。

フィロキセラ禍の打撃のあと放置されていたオート・コートの丘に新たに苗木を植えつけたり、1990年にはヴォーヌ・ロマネ《オー・レア》を、1993年と1996年にはシャンボール・ミュジニーのいくつかの区画を、そして1995年にはモレ・サンドニ《アン・ラ・リュ・ド・ヴェルジィ》の区画を購入したりしました。

1995年、ジャン・グロが引退し、子供たちにドメーヌを分け与えました。

父と共にドメーヌ・ジャン・グロの経営にずっと携わってきたミシェルは、次の畑を譲り受けました。

ヴォーヌ・ロマネ・ブルミエクリュ《クロ・デ・レア》モノポール、ニュイ・サン・ジョルジュの二区画、ヴォーヌ・ロマネの一區画、そしてブルゴーニュの一區画です。

1997年、地主のエカール家はミシェルにヴォーヌ・ロマネとニュイ・サン・ジョルジュにある3.5ヘクタールの畑を委託しまし

た。続いて 2008 年に 2.5 ヘクタールのオート・コート・ド・ニュイの畑も委ねました。  
ドメヌ・ミシェル・グロは今日、総じて 23 ヘクタールの畑からワインを生産しています。

### Pierre Gros ピエール・グロ (1990 年生まれ)

エンジニアの学問を修めた後、パリで最初の職業に就いたピエールは、自らのワインの情熱と先代たちが築きあげた家業の長い歴史から、再びドメヌに戻り、醸造の勉強を積みました。2016 年、ブドウ栽培・醸造に関する高等技術士としての資格をとり、父が長年の実践で身に着けた手腕を譲り受けるべく、ミシェルに師事し、収穫と醸造に従事するようになりました。2019 年、家業に専念できるようエンジニアの職を離れました。その年から徐々に父から息子へ権限が譲られ、ドメヌの経営と安定したワインの品質を今後ピエールが担っていけるよう全般の仕事に携わっています。偉大なワインを造るためには、ブドウ栽培と土壌を生かす事が根本になると悟ったピエールは、テロワールへの更なる理解に努め、年間通じてブドウ畑での緻密な作業に信念を持って行っています。

### Bourgogne Pinot Noir ブルゴーニュ ピノ・ノワール

畑の面積: 1.20ha 所有者: GFA Jean Gros, GFA des ARBAUPINS

ヴォーヌ=ロマネ村、国道74号の東側、丘の麓に位置する。表土は粘土と沖積土が混じり合ったもので、下層土はプレイストセーン期の砂や細かく砕かれた小石で構成されている。このように痩せた土壌から出来るワインは、紫がかっていて、酸がしっかりしている。とてもフレッシュで、芳香の高いワインである。

### Bourgogne Hautes Cotes de Nuits Rouge ブルゴーニュ オート・コート・ド・ニュイ ルージュ

所有者: Michel Gros オート=コート(丘の上方)のぶどう畑もやはり、1885~1900 年にかけてフランス全土を襲ったフィロクセラ禍によって全滅した。コート(丘の中腹から麓にかけて)はその後直ぐに植えかえられたが、オート=コートは 1970 年代になるまで復活しなかった。私の父、ジャン・グロはこのワインを復活させた先駆者の一人である。

私たちの畑はアルスナン村にある。この村はムザン川の渓谷の奥にあり、ニュイ=サン=ジョルジュから西に7km言ったところである。畑は南東向きの斜面にあって、標高は 360~420m である。つまりコートの畑に比べて約 100m 高い。この標高差によって、収穫は約 8 日間遅くなる。

ぶどうの木は、各々の列の間に 2.6m の幅をとって植えられている。棚の高さは 1.8m に設定している。この方法だと、等高線のカーブに沿わせて、列毎に小さな段状にすることができる。各列の間には芝生を植え、剪定はコルデン・ピラテラル(T 字形)式を採用している。

表土と下層土は3つの地層を含んでおり、標高がここより 100m 低いコート・ド・ボージュのアロース=コルトンに見られる地層と全く同じ構成となっている。つまりこの事から、このワインが力強く男性的な特徴をもっていて、長熟性に非常に富むということが理解できる。

### Bourgogne Hautes Cotes de Nuits Au Vallon Rouge ブルゴーニュ オート・コート・ド・ニュイ オー・ヴァロン ルージュ

ミシエルのオート・コートに対する個性と可能性の探求は続きます。

2014 年を皮切りにリリースしたモノポール・フォンテーヌ・サン・マルタンに続いて、2016 年のヴァンテージから《オー・ヴァロン》のキュヴェを独立させることにしました。3ヘクタールに及ぶこのリュウ・ディは、マレイ・レ・フツッセイ村に位置し、標高 425~440m の間、真南向きの丘陵の斜面に横たわり、畑を境に森が広がっています。区画の上部はオックスフォーディアンのマール土壌、中腹から下部にかけて同じ時代の粘土石灰岩土壌が基盤となっています。

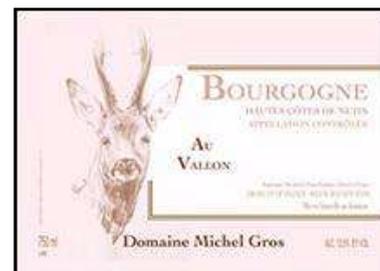
フィロクセラ禍以来手つかずになっていたこの土地の開墾を始めたのは 1978 年のこと、ミシエルは順繰りにピノ・ノワールを植えていきました。

それまでは同村の教会が所有し長い交渉を経て 2013 年にやっと手に入れた最後の区画を持ってして、オー・ヴァロンの全区画の植栽を完了しました。

開墾当初から最後に植えられたブドウ樹の総合的な平均樹齢をとれば、すでに 30 年の樹齢にのぼります。

オート・コートのそれぞれのリュウ・ディは、以前からずっと分けて醸造し熟成させてきました。

つまり瓶詰め 2 か月前に最終的にブレンドするまで、栽培と造りの段階で各区画の個性を研究し記憶していたのです。



ミシェルはそれぞれの区画から生まれるワインの個性を、自らの体験と記憶によって熟知しています。《ル・ヴァロン》の個性は、オート・コート・ド・ヌイの他のキュヴェより、タンニンがシルキーで、酸が優しいことです。そのため若くからして柔らかく飲みやすいワインになります。

「太陽」を感じさせるこのキュヴェの味わいは、ブドウ樹が育つ環境を反映しています。

真南向きの斜面が与える最大の日射、北や東から吹き抜ける風を隣接する森や丘が遮断し寒さから守っていること、ブドウ樹が属するそういった恩恵が自然とワインに現れているのでしょうか。

## **Bourgogne Hautes Cotes de Nuits Fontaine Saint Martin Blanc**

**ブルゴーニュ オー・コート・ド・ヌイ フォンテーヌ・サン・マルタン ブラン**

## **Bourgogne Hautes Cotes de Nuits Fontaine Saint Martin Rouge**

**ブルゴーニュ オー・コート・ド・ヌイ フォンテーヌ・サン・マルタン ルージュ**

ドメーヌ・ミシェル・グロの2番目のモノポール

私の父ジャン・グロと、私自身が40年の月日をかけて造り上げた一つの区画、それがオート・コート・ド・ヌイのアルスナン村にあるフォンテーヌ・サン・マルタンです。

コート・ド・ヌイに見られるような東南東向きの斜面、標高350~390メートルの間に、この7ヘクタールのブドウ畑が段々状に連なっています。眼下に小谷とリュエ＝デュー・デ・シャン(Lieu-Dieu des Champs: 神が宿る畑の意)シー修道院を眺めることができ、シスターたちによって経営されていたこの古い尼僧院は、約800年前に創設されたとされ、この丘にブドウ畑を所有していました。19世紀末のフィロキセラ禍によってブドウ畑が壊滅して以来、その畑の大部分は再び森で覆われていました。

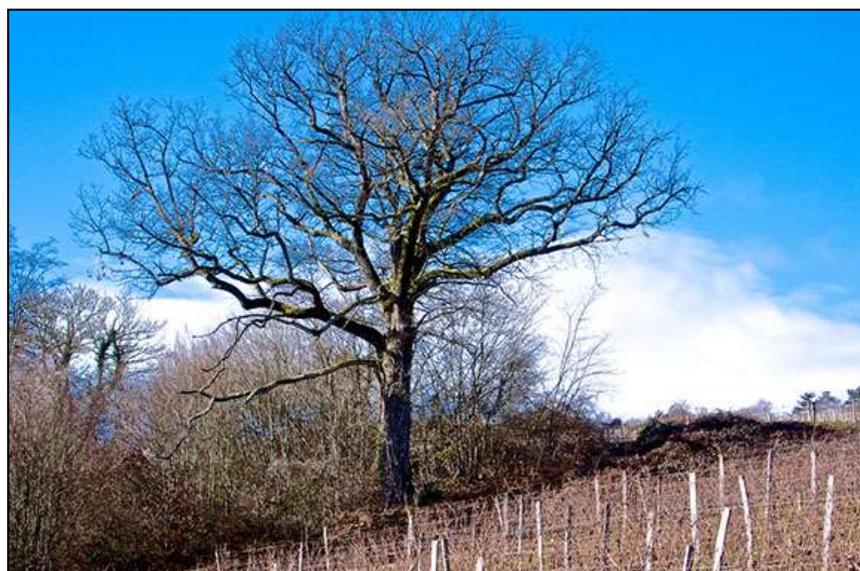
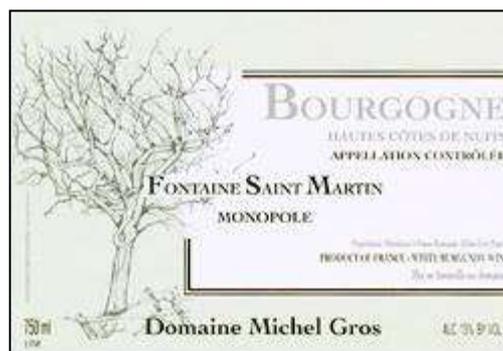
1976年に父ジャンが森の開拓に着手し、続いて私が畑の再建に取り掛かり、1981~86年にかけて4ヘクタールの畑にピノ・ノワールを植栽しました。87年から残りの3ヘクタールにシャルドネを植え始め、2007年に購入した最後の1ヘクタールを2009年に植え替えたとき、この畑全域の再統合を果たし、植栽作業を完了しました。

この畑に見られるのは、ジュラ紀オックスフォーディアン後期の石灰とマールが混ざった土壌です。同じ地層が5キロメートル南のコルトンの丘にも見られ、丘麓に位置するペルナン・ヴェルジュレス村の名に因んで一般に《ペルナンのマール》と呼ばれています。

私はこれまでずっとオート・コート・ド・ヌイのブドウを、区画ごとに分けて醸造し熟成させてきました。夫々の区画のワインを瓶詰め直前まで観察し、最終的なブレンドを実行してきました。

つまり、30年近くのヴァンテージに跨って、フォンテーヌ・サン・マルタンのワインの魅力とオリジナリティを把握しています。このような背景のもと、この区画の元来の姿を取り戻し、再現したいという意志に駆られ、長きに渡って畑の再建に取り組み、個性豊かな一つのキュヴェに造り上げることを達成しました。

ドメーヌ・ミシェル・グロの新たなモノポール《キュヴェ・フォンテーヌ・サン・マルタン》は、2014年を初ヴァンテージとし、オート・コートから単独キュヴェとして新たに独立させます。



## **Chambolle Musigny シャンボール・ミュジニー**

畑の面積:0.69ha 所有者: Michel Gros

シャンボールにある私たちの最も広い区画(42ares)は、《レ・ザルジリエール》の中にある。「アルジリエール」とは「粘土質の土地」という意味で、ここではその名の通りの土壌となっている。

《レ・ミュジニ》の北側に隣接し、シャンボールの谷の入り口にある。

この畑から生まれるワインは、力強く、村名クラスのシャンボールにしては希少な凝縮感を持っている。

むしろブルミエクリュのような印象さえ与える。

この地にも四つの小さな区画が、《ナゾワール》《マラディエール》《モンピ》という畑の中にある。これらの畑は皆、扇状に広がる谷の出口の沖積地にあり、下層土は石が多く、水捌けが非常に良い。

## **Morey St Denis En la Rue de Vergy モレ・サンドウニ アン・ラ・リュド・ヴェルジ**

畑の面積:0.23ha 所有者:GFA des ARBAUPINS

この畑は険しい急斜面にあり、かの有名な《クロ・デ・ランブレイ》の南の壁沿いに伸びている。

そこにはとても古いヴェルジ通りがあり、かつてモレ村とヴェルジの丘をまっすぐに繋いでいた。

当時この場所にはヴェルジ卿の城とサン・ヴィヴァン修道院が建っており、12～18世紀にかけて地方で支配的な権力を振るっていた。

1980年代になると、この畑は全体的に整備され、再びぶどうの植え付けが行われた。

30～35cmの表土は非常に多くの石を含む粘土質で、下層にコンブランシアン石灰が横たわっている。

この畑の土壌は軽く、フィルターのように素早く水をしみ通す。ワインは優しく繊細で、非常にエレガントである。

INAO(アペラシオン統制機構)によって、ブルミエクリュへの昇格が審査されている。

1995年、ミシェルは、ぶどうの木が3歳の時にこの畑を買った。この呼称のもとで販売を開始したのは、2000年のヴィンテージからである。

## **Vosne Romanee ヴォーヌ・ロマネ**

畑の面積:0.92ha 所有者:1/3 Michel Gros,1/3 GFA Jean Gros,1/3 GFA des ARBAUPINS

このキュヴェは、《オー・レア》《オ・ドシュ・ド・ラ・リヴィエール》《ラ・コロンビエール》の三つの畑から造られる。

これらの畑は皆、ヴォーヌ=ロマネ村の住宅街からほどないところに位置する。

オー・レア以外の二つの畑の土壌は、石灰質のコングロメラ(礫岩)とオリゴセーヌ期の粘土から成っている。

鮭(ソーモン)のようにピンク色をしていることから、「コングロメラ・ソーモン」と呼ばれている。

一方、《レ・レア》は、バジョース階(ジュラ紀半ば頃)の非常に硬い石灰の上にある。

石灰の塊と混ざりあった泥灰土から生まれるこのワインは、とても優しく、非常にエレガントである。

## **Nuits St Georges ニュイ・サン・ジョルジュ**

畑の面積:0.82ha 所有者:1/2 GFA Jean GROS, 1/2 GFA des ARBAUPINS

このキュベは四つの畑から構成されており、全てニュイの町の北側に位置する。

各クリマ(畑)の特徴は以下の通りである。

《レ・ザテ》: ムザン川渓谷の沖積地にあり、褐色の深い表土で覆われている。

《レ・ラヴィエール》: 「ラーヴ」と呼ばれる平たい石が見られる土壌。この石は昔、屋根を作るのに使われていた。

《レ・バド・コンブ》: 「谷の下」の意。ヴォーヌ村との境界線にあり、レアの小さな谷の上方にあたる。

《ラ・ペリエール・ノブレ》: 「ペリエール」は採石場を意味する。この畑は丘の頂上付近の急斜面にあり、下層部はウーリット・ブランシュ(白い魚卵状石灰岩)の硬い石灰から成っている。

これらの畑をブレンドして出来たワインは、エレガントに仕上がっている。ニュイにしてはタンニンがかなりしなやかで、ヴォーヌとニュイの中間的な特徴を持っている。

## **Nuits St Georges Les Chalitos ニュイ・サン・ジョルジュ レ・シャリオ**

畑の面積:0.82ha 所有者:GFA des ARBAUPINS

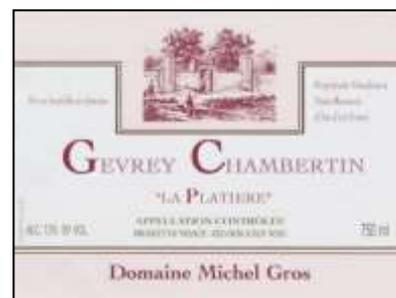
この畑の名前は「シャイク」(小石)に由来している。畑はニュイの町より南側、扇状の沖積地にあり、石がとても多い。表土は

粘土質で石灰が少なく、シャイユや珪素が豊かに存在する。また、赤味がかかった一種のシレックス(火打石)がところどころに見られる。この土壌の性質はとても変わっているため、単独でキュベを造ることを試みた。こうして出来たワインは素晴らしいミネラル感を持ち、一つのフルーツを思わせる非常にピュアな芳香を放つ。また、しっかりとした酸と強いコシを持ちあわせるため、長期熟成の潜在能力を豊かに感じさせるワインである。

## Gevrey Chambertin La Platiere ジュヴレ・シャンベルタン ラ・プラティエール

畑の面積:0.33ha

畑の区画は『ラ・プラティエール』というリューディにあり、ラヴォー溪谷の扇状地の下方に何千年もの時間をかけて運ばれた泥土と沖積土が混ざりあった土壌です。これはジュヴレ・シャンベルタンの村名アペラシオン全体に主に広がっている土壌で、ここから造られるワインはボディがしなやかで奥深く、単なる村名クラス以上の品質が整っています。



## Nuits St Georges 1er Cru ニュイ・サン・ジョルジュ プルミエ・クリュ

畑の面積:0.27ha 所有者:GFA des ARBAUPINS

このワインは二つの畑から造られている。《レ・ヴィニユロンド》《レ・ミュルジュ》という名で、互いに近く、どちらもニュイの町の北側に当たる。丘の斜面の下部3分の1のところろに位置し、表土は砂っぽく、非常によく水を通す。

このワインの特徴は、ニュイのプルミエクリュらしい力強さと、溶け込んだタンニンがヴォーヌの近隣であることを思い起こさせる、二次元性にある。熟成の遂げ方は秀逸である。

## Vosne Romanee 1er Cru Aux Brurees ヴォーヌ・ロマネ プルミエ・クリュ オー・ブリュレ

畑の面積:0.63ha 所有者:GFA des ARBAUPINS

この畑は、グロ家が所有しているリシュブールの区画の北側に隣接している。「ブリュレ」とは「焼けた」という意味で、土壌の水捌けの良さが畑の名前に由来しているようだ。おそらく、夏の間表土が乾燥して、そこに生えていた植物が短期間のうちに焼けたように枯れたのだろう。

小石を非常に多く含む表土は30~35cm程度の深さで、下層土は、プレモー村でとれる石と同タイプの硬い石灰である。このワインには素晴らしいミネラル感があり、リシュブールと同系列の印象を与える。もっとも、リシュブールとこの畑を分けているのは幅3mほどの一本の道に過ぎない。しかし、表土がリシュブールより浅いため、タンニンがやさしく、比較的早く飲み始めることができる。

## Vosne Romanee 1er Cru Clos des Reas ヴォーヌ・ロマネ プルミエ・クリュ クロ・デ・レア

畑の面積:2.12ha 所有者:GFA Jean GROS

この畑は私たちがモノポール(単独)で所有しており、1860年にアルフォンス・グロが購入したものである。ラベルにある挿絵は当時のものだ。つまりその頃から、私の祖先たちはこのワインを瓶詰めし、蔵元で販売していた。

世代交代を経ながら、このラベルは次の名を掲げてきた。

・グロ・ゲノー・グロ・ルボ・ルイ・グロ・ジャン・グロ・そして1996年からはミシェル・グロである。

この畑を囲む三角形の壁は村の東側に伸びていて、その中腹には巨大な門が堂々と立っている。非常に古い小さな家が壁の北側の隅にあり、村役場の広場に面している。

クロ・デ・レアは、レアの谷から突き出た小さなふくらみの上にある。下層土はオリゴセーヌ期のコングロメラ・ソーモンで、泥灰土と混ざり合った石灰の塊が多く存在する。こういった特徴の土壌が起伏しているため、水捌けは素晴らしく良い。

このような泥灰土の畑から生まれるワインは、タンニンがしなやかで、エレガントな芳香を放つ。酸が比較的弱いので、若いうちから楽しむことができる。しかし飲みやすいという印象によって判断を誤ってはならない。このワインは完璧なまでに均整がとれているため、実のところ10~15年にわたって果実味やフレッシュ感を保ち続ける。



2019年は、クロ・デ・レアの区画をグロ家が1860年4月29日に購入して以来、単独所有でワイン造り続け、160周年を迎える記念すべきヴィンテージです。クロ・デ・レアはドメーヌ・グロのフラッグシップとなり、数々の褒賞を受けてきました。1867年の万国博覧会で獲得した金メダルはその代表的なものであり、その時の記念ラベルを2009年のヴィンテージに再現しています。このラベルは2019年のヴィンテージにも貼られます。

## Clos Vougeot Grand Cru Grand Maupertui

### クロ・ヴージュ グラン・クリュ グラン・モーペルチュイ

畑の面積:0.20ha 所有者:Michel Gros

この畑は、クロ・ヴージュ上方の壁際《グラン・モーペルチュイ》という区画の中にあり、グラン・ゼシエゾーとは境界線上にある。ジャン・グロが1967年に、当時11歳になる息子ミシエルの名で購入した。今日では従兄妹のアンヌ・グロが同じ畑のワインを造っており、両者の区画は縦長に隣接している。

1985年、厳しい霜の害にみまわれ、ぶどうの木を全部引き抜かなければならなかった。1987年、116-49番の台木に115番のクローンを接ぎ木し、再び植えつけを行った。この結果、非常に早熟なぶどうが得られるようになった。この区画からできるワインの特徴は、タンニンがともしなやかで酸が比較的弱いことである。実際しっかりと凝縮感があるにもかかわらず、若いうちからワインを楽しむことができる。そのうえ10~15年間、非常に良い熟成を遂げる。

#### 【2019年ヴィンテージについて】

冷涼な春に続き、暑く乾燥した夏が訪れた2019年の収穫は、タイミング的には一般的な9月下旬の日程にとどまり、ブドウの熟度と凝縮度においては特筆すべき水準に達しています。

2018年~2019年にかけての冬は類稀な穏やかな気候で、凍結や霜は殆ど見られないほどでした。そのため3月末にはブドウの樹々は早くも息吹の気配を感じさせ始めました。強運なことにより4月、5月はむしろフレッシュな気候だったので、芽吹きやその後の生育速度は修正され、6月15日頃に開花のピークを迎え、9月25日前後に収穫になるだろうと言われました。

開花のタイミングはまちまちで、雷雨の影響で花が落ちてしまったり、所々結実に至らない果粒を含むミルランダーージュの房がつかまりました。しかし、開花期を過ぎると好天に恵まれ、ブドウはぐんぐん育ち、葉や枝が茂っていきました。

7月、8月は暑くて乾燥していましたが、7月末の雷雨が水不足のストレスからブドウを守ってくれたので、成長障害を起こすようなこともありませんでした。

8月末にブドウは熟し始め、その数週間先までの天候予測を見たとき、当初9月23日に予定していた収穫を、ほぼ一週間早めることを決断しました。

9月に入るととても暑くなり、ブドウの熟度は目に見えて進んでいきました。

収穫は9月17日に開始し、27日にオート・コートで終了しました。

2018年と同様に醸造所に運び込まれたブドウは非の打ちどころなく健全で、選果はほとんど必要ありませんでした。残念だったのはオート・ド・ニュイでは、2018年の収穫量に比べて約3分の1ほど減少してしまったことです。これには微妙な開花期と夏の雨量の少なさが要因に挙げられます。

賞賛に値すべき熟度、完璧なる健全さ。そのようなブドウから醸されたワインは、リッチであると同時にピュアでフレッシュさがあり、見事なバランスになっています。

2019年を過去のヴィンテージと比較するならば、2015年や2018年の太陽の年、完熟に達したブドウの持つ光や輝きを感じさせるワイン、充実した酒質がしなやかにタンニンを包み込み、味わいの凝縮が傑出している年と言えるでしょう。